

# 委員視察研修報告(宮城県石巻市、名取市)

H24.11.21~22

去る、11月中旬に新発田市農業委員会は、宮城県石巻市を訪れました。その地を視察先とする事に委員全員がさまざまな思いを胸に足を踏み入れた事と思います。



初日、高校で教鞭を取る傍らボランティアガイドとして私達のバスに同乗しながら震災の日の状況、被害の説明等、熱心にお話しをして下さった方は、「日野長介さん」と言う方で、ご自身も自宅一階が津波で浸水された方でした。

テレビ等のマスメディアを通して平面的な画像での印象でしかなかった私達は、その場に降り立ってその悲惨な現況に言葉を失いました。そこは震災前、何百という数の建物が建っていた住宅地であったようですが建物の基礎の部

分だけが残り地盤沈下により、まだ海水の残る荒地に姿を変えており、とても元の状態を想像する事など出来ない状況でありました。ガイドの日野さんのお話しを聞きながら、見る程に、聞く程に胸の奥が重くなっていくのを感じておりました。そんな私達の

心中をお察しされたのか、悟られたのか、日野さんは、「皆さんがこの地を訪れて、3月11日という日を忘れずにいてくださること。そしてこの現状を目に焼き付けて、地元へ帰っていただいて後世に語り次いでいただくこと。そ

れだけでいいんです。」とおっしゃいました。少しだけ胸の奥が軽くなった様な気がしたことを覚えております。

次の日、私達は津波で海水を被った宮城県名取市の農地を見学いたしました。「有限会社耕谷アグリサービス」という農業組織の代表、佐藤さんから説明をいただき、「海岸から5キロも離れているから俺達は大丈夫だと思っていたが……」とのこと。震災のあった日から避難先にお米を送る為、昼夜問わず自社の倉庫の米の全部を精米し続けたそうです。こんな状況ですから米の代金をいただけることはないことも承知の上の行動であったそうです。

少し落ち着いてから自社の被害状況を調べたところ、頭

の中が真白になりしばらくの間、動けなかったそうです。ときおり言葉を詰まらせながら説明をしてくださる姿に委員も目頭らを熱くしながら聞き入っております。

その後、従業員の将来の為、会社を継続することを決断し、比較的塩害に強い「綿花」の栽培に着目し、稲・大豆を中心にさまざまな作物を栽培しながら、水田の除塩作業を行っていました。

のリーダー的存在を感じました。

災害から2年が過ぎようとしている中、まだまだ手付かずの現況が数多く点在していましたが、一日でも早く普通の生活が取戻せますようにお祈り申し上げます。平々凡々と日々の生活おくる事の出来るありがたさを痛感した視察になりました。

(曾我崇委員)



## うぶやち

### 「還暦」

還暦とは、数え年で61才、十二支が60年で一巡、61年目に生まれた年の干支に還り、そこでまた生まれ直すという意味を込めています。赤いちゃんちゃんこは、赤ちゃんに還るといふ意味と赤は魔除けの色とされていたためです。簡単に言えば3回目の成人式です。有名な織田信長の「人生50年、下天のうちを比べれば……」にあるように自分が生まれた干支と同じ年まで生きることが、昔は大変めでたく、名譽なことでありました。

今、日本人の平均寿命は、男性79才、女性は86才と発表されています。前者の信長が曰く「夢うつつ……」信じられないことでしょうか。日本の男女の長寿の秘訣は、ある時期より疫病、対外抗争が無くなり、また医療技術の進歩、個々の健康管理など、色々なことが要因と考えられます。

はたして、人間はいつまで幸せなんでしょうか？長寿社会で100才になっても、シヤンとして居る人も大勢います。少子高齢化、核家族化等に伴い社会構造の変化によって、交通事故死よりも多い自殺者等、明日の事を考えてもキリがありませんが、と云って考えないわけにはいかないのが現実です。

凡人である私は、ひよっとするともう一回成人式を向かえる事が出来るかも知れません。それを楽しみにゆつくりと妻と余生を過ごしたいものです。今は昔の物語でした。

(石井辰彦委員)